

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	岡崎 均
2. 審査委員	主 査：（兵庫教育大学 教授）關 浩和 副主査：（兵庫教育大学 教授）吉水 裕也 委 員：（岡山大学 教授）桑原 敏典 委 員：（兵庫教育大学 教授）南埜 猛 委 員：（兵庫教育大学 教授）勝見 健史
3. 論文題目	小学校社会科教科書のデジタル化に関する研究 －教科書の構成ユニットと構造分析に基づく設計理論と事例開発－
4. 審査結果の要旨	<p>論文提出による学位申請者 岡崎均から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：令和元年11月30日（土）14時00分～15時00分 場所：兵庫教育大学教育・言語・社会棟7階 702室</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>(1) 論文の構成</p> <p>第Ⅰ章 問題の所在と研究の性格</p> <p>第1節 問題の所在</p> <p>第2節 研究目的と方法</p> <p>第Ⅱ章 社会科教科書の構成ユニットと構造</p> <p>第1節 社会科教科書の構成ユニットと構造分析の対象と方法</p> <p>第2節 社会科教科書の構成ユニットの分析結果と分析事例</p> <p>第3節 社会科教科書の構造と分析事例</p> <p>第4節 社会科教科書の構成と構造の課題</p> <p>第Ⅲ章 社会科教科書の構成ユニットと構造分析に基づくデジタル教科書の設計理論と事例開発</p> <p>第1節 社会科デジタル教科書の設計理論と方法</p> <p>第2節 社会科デジタル教科書の構成ユニットの事例開発</p> <p>第3節 社会科デジタル教科書の構造の事例開発</p> <p>第Ⅳ章 社会科教科書の構成ユニットと構造分析に基づくデジタル副読本の設計方法と事例開発</p> <p>第1節 小学校社会科副読本作成の課題</p> <p>第2節 小学校社会科デジタル副読本の設計方法</p> <p>第3節 小学校社会科デジタル副読本モデル事例「水産業のさかんな愛媛県南予地方」の設計方法</p> <p>第4節 小学校社会科デジタル副読本モデル事例「水産業のさかんな愛媛県南予地方」の事例開発</p> <p>第Ⅴ章 研究の意義と課題</p> <p>第1節 研究の意義</p> <p>第2節 研究の課題</p> <p>(2) 論文の概要</p> <p>本研究は、小学校社会科教科書の本文記述と資料の関連を視点にする構成ユニットと構造分析に基づいて教科書の構成と課題を解明し、分析結果から抽出した構成ユニットと構造に依拠して社会科教科書のデジタル化を図るための設計方法を示し、紙媒体の教科書を改善し、社会科学習指導の質を向上させる社会科デジタル教科書のモデル事例を開発している。</p> <p>本研究における主たる内容と成果は、次の3点にまとめることができる。</p>

第1は、小学校社会科教科書の構成と構造を、本文と資料の関連と配列に着目して分析し解明したこと。

第2は、インストラクショナルデザインの研究成果と小学校社会科教科書の分析結果に依拠し、社会科デジタル教科書の設計と開発方法を示したこと。

第3は、明らかにした社会科デジタル教科書の設計と開発方法に基づいて、小学校社会科デジタル教科書と副読本のモデル事例を開発したことである。

社会科授業の質的向上において教科書のデジタル化が果たす役割を明確にし、デジタル教科書・教材開発の先行研究と課題を明らかにして、小学校社会科教科書第5学年の産業学習を対象とし、教科書の本文を分類基準に基づき分類し、本文と関連資料のまとまりである構成ユニットと構成ユニットの配列である構造の2つの視点から、本文と資料の関連及び活用について分析を行っている。その結果、構成ユニットは、説明型と考察型、対象型に分類でき、知識の質と一定の関係があることを解明し、構造は、単独構造型と複合構造型の2つに大別され7つに類型化できることを明らかにしている。さらに、認知心理学の二重符号化理論の研究成果を基に、教科書本文の、興味・関心、事実、事実関連、価値等の知識の質に段階的に対応した説明型と考察型の構成ユニットの設計方法を示しモデル事例を開発した上で、構成ユニットの配列である構造の類型に基づき構造の設計方法を示し、解説提示型、興味・関心課題設定活用型、集中活用型、順序活用型、関連・重複活用型、選択活用型の6つのモデル事例を開発した。この2つの設計方法と事例開発によって、紙媒体の教科書を改善するためのデジタル教科書の設計と開発の全体像を示している。

本研究の意義は次のようにまとめられる。①紙媒体の教科書分析の方法を構成ユニットと構造の視点から確立したこと、②教科書分析を通して、本文の知識の質と資料が説明型、考察型、対象型と3つの関係にあることを抽出し、本文記述の知識の質と一定の関係があることを解明したこと、③本文と資料活用の傾向を示す構成ユニットの配列が7つの構造に類型できることを解明したことである。④小学校社会科デジタル教科書の意義を明確にし、構成ユニットと構造の分析結果に基づき、紙媒体の教科書を改善する小学校社会科デジタル教科書の設計と開発方法を明らかにし、紙媒体の教科書の改善モデル事例を開発したこと、⑤開発したモデル事例は、紙媒体による教科書と同等の質を担保し、同時に質的改善を図りながらデジタル化していること、⑥紙媒体での設計を前提としない社会科デジタル教科書の設計と開発の全体像を、モデル事例を通して明らかにしたことである。

今後、教育の情報化、ICT活用の取組は、タブレット型PCの学校への導入と共に大きく進展する。本研究で示した社会科デジタル教科書の設計方法と開発モデル事例が、今後のデジタル教科書の研究開発の足がかりとなることを期待してやまない。

2. 審査経過

論文公聴会に引き続き行われた審査委員会では、論文内容について質疑が行われた。審査委員会では、本研究について、社会科デジタル教科書の設計方法と開発モデル事例を提案したことが特質すべき成果であると高く評価された。そうした基本的な評価を踏まえながら、主要な質問は、以下の10項目であった。①本論文で述べられているところの教科書と副読本の性格の違いをどのように捉えているのか。②教材について、「学習材」という捉え方があるが、どのように考えるか。③研究論文において、社会科教科書の先行研究が少ないと指摘している。なぜ、少ないと考えられるのか。④関連論文として提出されている「データベース開発に基づく社会科教授メディアの構成理論と開発方略に関する研究」において述べているハイパーメディア教材の位置づけはどうなっているのか。⑤関連著書として提出されている「江戸時代間違っただけで教えてませんか」において、平成15年当時、社会科が技能教科として捉えられていることを危惧されている。新学習指導要領が施行されている現在、このことをどのように捉えているのか。⑥中学校や高校の教科書は内容が記述されているが、小学校の社会科教科書には、子どものインタビュー等が取り上げられている。教科書分析時の取扱いはどうに考えているのか。⑦社会科教科書では話し合いなどの学習活動が想定されている。デジタル教科書では学習が個人の中で完結してしまうことはないのか。⑧教育でのICT活用の議論において、個別化や最適化の視点について、本研究の社会科デジタル教科書開発においてどのように考えているか。⑨教科書をデジタル化することにより多くの資料を取り扱うことができると思われるが、そのデータ量についてどのように考えているか。⑩デジタル教科書がどのような人をターゲットとして考えているのか。また、本研究論文が公開された際の著作権についてはどのようになっているか。

岡崎氏は、これらの質問に対して、研究の成果と課題（限界）を整理・峻別しながら、研究の目的・先行研究の整理・学習原理・内容構成・授業実践と評価の各レベルで適切かつ明確に回答した。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は岡崎均の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。